

過程	現状把握	
研修形態	事前レポート	
教育方法	自己研修	
到達目標	日本語教育を志した初心に戻り、自己を見つめなおし、現在の自身の状況を客観的に把握する。	
課題概要	日本語教育を志した理由、現在の業務内容や努力している点、これまでに遭遇した事例について振り返りまとめる。	
教育内容	(8) 演習	
単位時間数	12	

過程	気づき・進化	気づきの確認・チャレンジ	
研修形態	集中講義	研修形態	事後課題
教育方法	オンライン集合研修	教育方法	自己研修
担当講師	大島 武（東京工芸大学芸術学部 教授）		
科目名	教育に活かすプレゼンテーション技術		
到達目標	日本語教師として必要なプレゼンテーション力とコミュニケーション能力を高め、効果的な教育実践のためのスキルを身につける。		
授業概要	効果的なコミュニケーション、プレゼンテーションに必要な理論について実例を交えて解説する。日本語の授業を想定して、効果的な視覚教材の作成のポイントやわかりやすい話し方や伝え方、集中力の維持に繋がる授業構成などについて考察する。	課題概要	講義の要点の観点から自分自身の授業を内省し、実際の授業や業務にどう落とし込んで行くかについて理由とともに考察する。
使用教材	担当講師作成のスライド、補助教材		
教育内容	(8) 演習	教育内容	(8) 演習
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	野田 尚史（国立国語研究所 教授）		
科目名	これからの日本語教育—技能別・目的別の教育—		
到達目標	日本語教育が技能別、目的別に細分化されている現状を把握した上で、学習者の状況に応じて教育観点から見てどのような教育内容・指導法が必要となるか考えることができる。		
授業概要	技能別日本語教育について、主に文法・表現の観点から指導法について解説する。目的別日本語教育について、実際の使用場面から必要となる教育内容と指導法について問題提起する。	課題概要	技能別、目的別の日本語教育とこれまでの日本語教育を比較し、特定の技能・目的のために必要または不必要な教育内容や技能について具体例を挙げて考察する。
使用教材	担当講師作成のスライド		
教育内容	(8) 演習	教育内容	(8) 演習
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	建石 始（神戸学院大学文学部 教授）		
科目名	指導案作成・教室活動・教授法について		
到達目標	オンラインツールやシステムを自身の指導案や教室活動に効果的に活かす方法を考えることができる。		
授業概要	大学の教育実習を例に挙げ、指導案、教室活動、教授法について確認する。日本語授業に役に立つオンラインツールやシステムについて紹介する。	課題概要	講義で紹介したツールやシステムについて自身の授業にどう活かせるかを考える。
使用教材	担当講師作成のスライド、オンラインツール		
教育内容	(8) 演習 (9) 留学生のための教材・教具のリソース	教育内容	(9) 留学生のための教材・教具のリソース
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	栗原 由加（神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 教授）		
科目名	日本で就職する留学生のために		
到達目標	キャリア支援の視点を持ち、日本で就職する際に必要となる日本語指導・サポートを実践する上で必要となる知識・技能について考えることができる。		
授業概要	日本での就職を希望する学生のために、日本語学校でどのような教育とサポートが必要となるのかについて、模擬授業も交えて解説する。	課題概要	留学生・外国人が日本企業に就職した際に起こり得るトラブルに備えて、日本語学校でどのような教育・指導をすべきかについて考察する。
使用教材	担当講師作成のスライド、補助教材		
教育内容	(5) 進路選択関連情報	教育内容	(5) 進路選択関連情報
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	泉 博朗（泉行政書士事務所 所長）		
科目名	日本の留学生受入れ施策と日本語教育		
到達目標	留学生・外国人を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持ち、日本の留学生受入れ施策、在留資格、必要となる日本語の資格試験等についてその内容を理解する。		
授業概要	入国管理、外国人受入施策、外国人技能実習制度、在留資格、外国人の就職活動についての概要を解説する。	課題概要	外国人材受入・共生のための法律や施策、取り組みについて調べ、学習者にどのように指導すべきかを考察する。
使用教材	担当講師作成のスライド		
教育内容	(1) 日本の留学生受入れ施策 (2) 法務省告示日本語教育機関の歴史と現状 (3) 日本語の試験	教育内容	(1) 日本の留学生受入れ施策
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	村田 淳（京都大学学生総合支援センター 准教授）		
科目名	障害のある留学生の支援—発達障害と合理的配慮を中心に		
到達目標	障害や合理的配慮についての認識や、障害がある留学生に対する理解を深め、情緒的側面に配慮してどのような支援ができるかを考えることができる。		
授業概要	障害がある留学生の支援について、発達障害と合理的配慮の観点から、その現状や教育者として教育機関としての支援の在り方について解説・問題提起する。	課題概要	障害のある学習者に対する支援をさまざまな角度から考える。また、支援機関や医療機関など学校以外で連携できる機関について調べる。
使用教材	担当講師作成のスライド、補助教材		
教育内容	(6) 留学生の異文化受容・適応 (7) 日本語の学習・教育の情意的側面	教育内容	(6) 留学生の異文化受容・適応 (7) 日本語の学習・教育の情意的側面
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	建石 始（神戸学院大学文学部 教授）		
科目名	日本語コーパスデータの活用法について		
到達目標	コーパスデータの種類や活用法について知り、実際に使用することができる。またその結果を指導案や日本語指導に活用する方法を考えることができる。		
授業概要	コーパスの紹介と、語彙や表現を検索する場合の詳細な条件設定や分析方法について実践する。	課題概要	指定された表現・語彙についてコーパスを用いて調査、比較・分析をする。
使用教材	担当講師作成のスライド、少納言、BCCWJ		
教育内容	(8) 演習 (9) 留学生のための教材・教具のリソース	教育内容	(8) 演習 (9) 留学生のための教材・教具のリソース
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	増田 拓也（弁護士法人色川法律事務所 弁護士）		
科目名	日本語教師が知っておくべき著作権		
到達目標	ICT等の多様なリソースを活用した指導をする上で必要となる著作権に関する知識を得る。		
授業概要	日本語教師が知っておくべき著作権・著作物について、特に教育機関における複製について解説する。	課題概要	インターネット上のフリー素材の利用規約を確認し、自身の授業の教材リソースとして規約規約に沿ったものであるかを考察する。
使用教材	担当講師作成のスライド		
教育内容	(10) 著作権	教育内容	(10) 著作権
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	大阪日本語教育センター教員		
科目名	事例研究：各々の学校現場で日々起こる事例から		
到達目標	実際の事例について議論、共有し、これまでの対応を内省し解決案を模索することができる。日本語教師として主体的・協働して考える姿勢、態度を身につける。		
授業概要	大阪日本語教育センターの教育活動について紹介する。また、実際の事例についてグループで共有、議論する。	課題概要	留学生が遭遇しうる問題について考える。また、講義での事例やディスカッションを踏まえて、今後の指導・対応について考える。
使用教材	担当講師作成のスライド		
教育内容	(3) 日本語の試験 (4) 日本と海外の教育制度の違い (6) 留学生の異文化受容・適応 (8) 演習	教育内容	(6) 留学生の異文化受容・適応 (8) 演習
単位時間数	3	単位時間数	4
担当講師	森 篤嗣（京都外国語大学外国語学部 教授）		
科目名	言語習得・言語理解・成績管理		
到達目標	言語習得・言語理解に関する実践的な知識を持ち、自身の授業を内省することができる。Excelを用いてテストの処理や成績管理をする方法を知る。		
授業概要	第二言語習得に関する知識を確認し、言語理解にかかわる要因について実践的に解説する。Excelを使った成績管理、客観テストと主観テストの処理について実践演習を行う。	課題概要	第二言語習得の理論を自身の授業にどう活かすか、読解ストラテジーを培う学習指導においてどのような言語理解を目指すかを考える。Excelを用いて、散布図の作成、相関係数の掲載、クラス分けをする。
使用教材	担当講師作成のスライド、補助教材		
教育内容	(8) 演習 (11) 統計処理	教育内容	(8) 演習 (11) 統計処理
単位時間数	3	単位時間数	4

過程	気づきの確認・チャレンジ	
研修形態	事後レポート	
教育方法	自己研修	
到達目標	講義や議論、経験の振り返りを通じた内省力の強化と、日本語教師としてさらに成長していこうとするモチベーションを高める。	
課題概要	研修での学び、今後の日本語教育に対する抱負についてまとめる。	
教育内容	(8) 演習	
単位時間数	8	